

OMU Students 海外留学レポート



氏名 高橋 凜
所属 商学部 公共経営学科
学年 2年

留学先 ハンブルク大学
留学期間 2022/10/1~2023/9/30

★留学のきっかけ

★私は高校生の頃から海外に興味はあったものの、あと一步の勇気が出せず、これまで一度も留学プログラムなどを利用したことはありませんでした。そのことから大学生になったら留学に行くという目標を漠然と決めていました。英語はまだ未熟で、海外経験もない、そんな私が英語圏でない国に一年間という長期留学へ行くことにはもちろん不安や躊躇する気持ちもあったのですが、当時ハンブルク大学へ派遣されていた先輩方の留学体験記を読み、ハンブルクにとっても魅力を感じ、留学を決意しました。

★授業

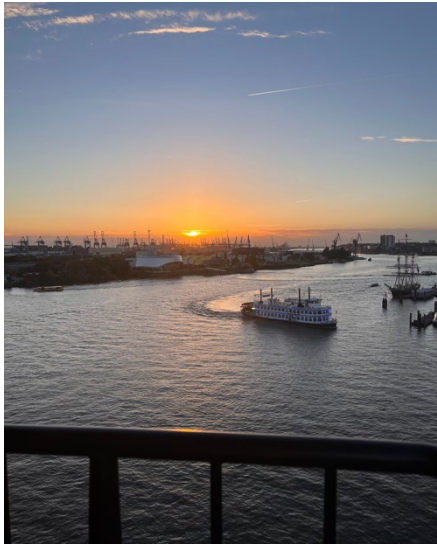
★私は初めのセメスターは主にドイツ語の授業を中心に、後半のセメスターでは引き続きドイツ語の授業とその他のほかにも英語の授業や自分の興味のある講義も受講しました。語学の授業ではセメスターのはじめにレベル分けテストを受け、そのレベルに応じた授業を選択することができます。ドイツ語の授業は4技能を向上させるための授業や他にもドイツ語を使ってドイツについて学ぶなど様々な授業が開講されていました。ドイツ語の授業には世界各国様々な国からの留学生が受講しており、授業を通してその国の文化や雰囲気を知ることができ、とても楽しかったです。そして基本的にどの授業でもドイツ語話す練習の機会がたくさんありました。はじめはドイツ語を話すことが得意で積極的に発言をする学生たちに圧倒され、それに比べて私の拙いドイツ語を話すことに緊張していましたが、先生や学生たちはそんな私のドイツ語にもしっかりと耳を傾けてくれるので、安心して授業内でもドイツ語を話すことができました。春休みにはビジネス英語の集中講義を受講しました。しかし参加者の内日本人はおろか私以外留学生はおらず、そのほとんどがドイツ人でした。授業内容も学生たちも私が想像していたよりもかなりレベルが高く、疎外感も相まって何度も心が折れそうな気持ちでいっぱいでしたが、結果的に英語の未熟さを再確認でき、英語学習へのモチベーションに繋がり、やりきってよかったと感じています。

★語学の授業以外にも、ハンブルク大学では日本語学科に所属しますが、他の学部の授業も直接教授にコンタクトを取り、許可が出れば授業を受けることができました。実際に私を含め他の日本人留学生たちもそれぞれ興味のある学部の授業を受けていました。私はドイツ語で私の興味のある分野の講義を受けることも目標の一つにしていたので、ドイツ語に慣れてきた後半のセメスターでは社会学部の講義を聴講というかたちで受講しました。やはり自分の知っている語彙と授業内の語彙のレベルの差に最後まで苦しみましたが、それでもドイツからの視点で、しかもそれを活かしたドイツ語で学ぶことができたということは私にとって大きな意味がありうれしかったです。

★学校生活

★学校生活はとても充実していました。というのも、私の所属していた日本語語学科の学生たちは授業の合間や終わりにみんなで集まって課題をしたり談笑したりと学年関係なく和気あいあいとした雰囲気でも、よくその輪の中に入れてもらっていました。私自身日本ではアルバイトもしていたため、忙しい日々の繰り返しでした。そのため授業終わり何気ないことを友人たちと話せるような、ゆっくりする時間を持つことはとても良かったです。また、そんな時間があるからこそ普段なら話さないような様々な話題について深いところまでお互いに意見を交換し合う事ができ、新たな視点を見つけられたり気づかされることも多々あり、視野が広がったように感じます。

★さて、ハンブルク大学のお昼ご飯事情について。ハンブルク大学には二つの食堂とそのほかにピザ屋さんやカフェがあります。安く、おいしく食べられるので学生たちにとっても人気です。私は大抵節約のために自分でサンドイッチを作って持参していましたが、たまに友人たちと待ち合わせをして一緒に授業終わりにお昼ご飯を食べに行きました。その中でも私が特に気に入っていたのは二つ食堂があるうちの一つのヴィーガンの食堂です。そこでは名前の通りヴィーガンの料理のみが提供されています。毎日メニューが変わってどれ



ハンブルク、エルプフィルハーモニーからの景色



ハンブルク市庁舎前のクリスマスマーケット



屋台の食べ物(マッシュルーム料理)



クリスマスマーケットのマグカップ



リューネブルクのクリスマスマーケットの様子



ドイツ式の朝ごはん



ハンブルク大学にあるビーガンの食堂のご飯